

第 39 回総合治水ワーキングチーム会議の協議結果

日 時 平成 18 年 5 月 23 日 (火) 13:30~21:00

場 所 宝塚市男女共同参画センター

出席者 (委員) 松本(誠)、奥西、川谷、畑、村岡、岡田、加藤、佐々木、田村、中川、
浅見、伊藤、草薙、酒井、谷田、土谷、山仲
(河川管理者) 田中、森田、渡邊、西村、合田
(事務局) 林、植田、木本

内 容(協議結果)

1 総合治水対策の検討

(1) 整備計画目標値

整備計画目標値について協議した結果、上下流バランスは必要な観点であるが、最優先課題ではないことを確認した。

(2) 基本方針、整備計画での河道分担量の検討

基本方針、整備計画での河道分担量について協議した結果、下記のことを確認した。

整備計画での河道分担量をさらに上乘せする可能性を検討したが、30年間の実現可能性については、甲武橋基準点において2,800m³/sが上限値であると確認した。

基本方針での河道分担量の上限値については、甲武橋基準点において3,700m³/s前後を目安とし、基本高水の選定結果を踏まえて調整する。また、甲武橋基準点において3,700m³/sとなる場合の河道での引堤箇所を確認する。

(3) 整備計画における貯留施設の検討

整備計画における貯留施設について協議した結果、下記のことを確認した。

千苅ダム、丸山ダムを治水活用するにあたって必要となる、代替水源の確保(工事期間中及び事前放流の「空振り」時)、バックアップ体制等について検討するため、次回ワーキングチーム会議(5月30日開催予定)時に調整がつけば、神戸市、西宮市、県企業庁担当者のヒアリングを実施する。

中流域での遊水地については、最下流の候補地を対象として、千苅ダムの治水活用の可能性を踏まえて、今後検討する。

「結果として湛水」の遊水地については、下流域へのピーク流量を軽減する実態を評価する必要があるが、数値として整備計画には盛り込まない。

河川管理者は、新規ダムの環境への影響に関する資料を総合治水WT会議に提出するにあたっては、今後の委員会の審議スケジュール及び資料の位置づけを明らかにすること。

(4) 整備計画における流域対策(水田)の検討

整備計画における流域対策(水田)について協議した結果、下記のことを確認した。

長野県の上川流域での取り組みを参考に、農家個人ではなく組織で洪水調節(操作)を行うことを検討するほか、操作の負担を軽減する装置化の検討や運用とオペレーションシステム、奨励金や農地への被害が生じた場合の補償等についてもあわせて検討する。

河川管理者は、貯留の対象となる水田での、専業農家、兼業農家の比率に関する資料を収集する。

2 その他

(1) 次回以降の会議の協議事項

総合治水対策

(2) 今後の日程（開催日時）

第40回 5月30日（火）13:30～

第41回 6月6日（火）13:30～

第42回 6月13日（火）13:30～

当日配付資料

資料1 武庫川 台風23号縦断図

資料2 千苅ダム（伊藤委員）

参考1 第42回委員会議事骨子

参考2 豪雨時における水田貯留による流出抑制の提言書（関連資料）